

民法
公法
免期滿得
講義

32
3
2/2

館書圖京東

函一四 門新

架 五 部一一

號 類

034415-000-8

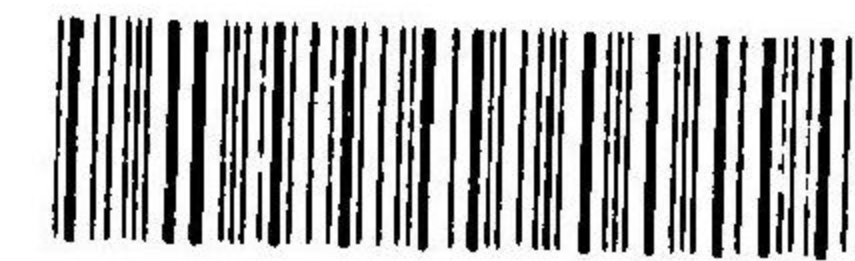
特30-186

民法公法免期滿得講義

ボアソナード/述

M14

BBL-0970



司法部藏版

佛國
民法
期滿得
免篇
講義

明治十四年七月

弘令社翻刻



特30

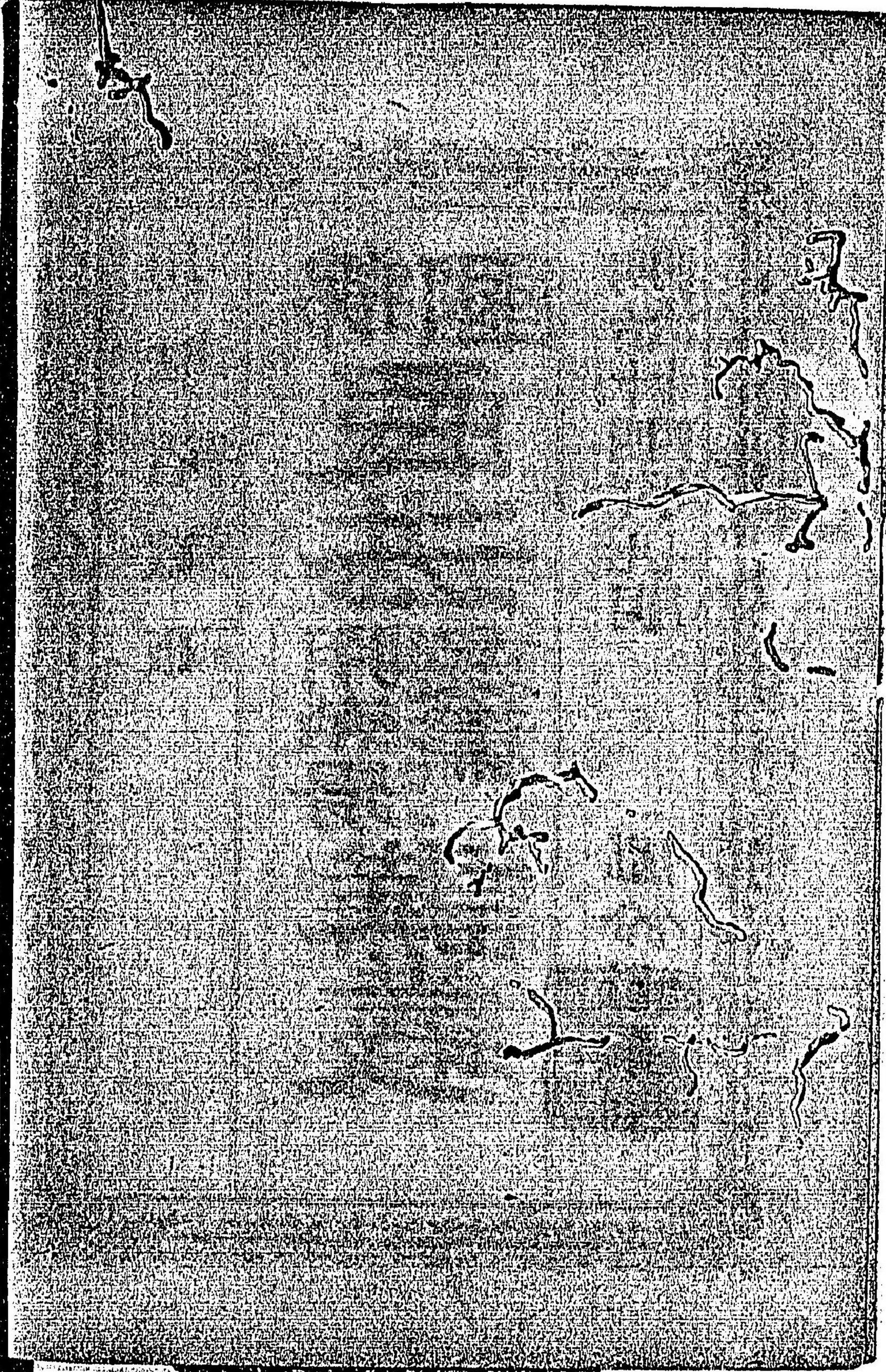
186

司法省藏版

佛國民法
期滿得免篇
講義

明治十四年七月

弘令



新編 民法 講義 第二卷 第一編 第一分編 第一分編 第一分編

凡例

- 一 此書ハ佛蘭西法學大博士ボアソナード氏佛蘭西民法期滿得免篇ノ講義ニシテ即チ第二千二百十九條ニ起リ第二千二百八十一條ニ終ル
- 一 此書ハ當時講場ノ筆記ニシテ誤脱無キヲ保シ難ク文辭或ハ明徹ナラサル者有リ然レモ漫ニ改削増補セス其旨義ヲ誤ラシテ恐レテナリ
- 一 各條全文ハ本書ニ備レハテ以テ唯其條目ノミヲ掲ノ第幾條乃至第幾條ト書スル者ハ數條ヲ連テテ混説セシナリ
- 一 文中○ヲ施ス者ハ本書成文ノ抄出ニ係リ□ハ原語()ハ註()ハ譯字ナルヲ示セシナリ
- 一 主眼ノ字ハ○點ヲ施シ參照及ヒ改正ヲ論スル者其他注目ス可キノ處ニハ、點ヲ施ス
- 一 各條ノ講說前後倒置或ハ混加スル者有リ搜索ニ便ナラス故ニ條目ハ順次之ヲ掲ケ其下必ス其處ニ審ナルヲ明示ス
- 一 譯字ノ左傍ニ原語ヲ附スル者ハ原語ニ通スル者其意義ヲ尋釋スルノ便ノ爲メニス

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第一號 明治十二年七月二十二日

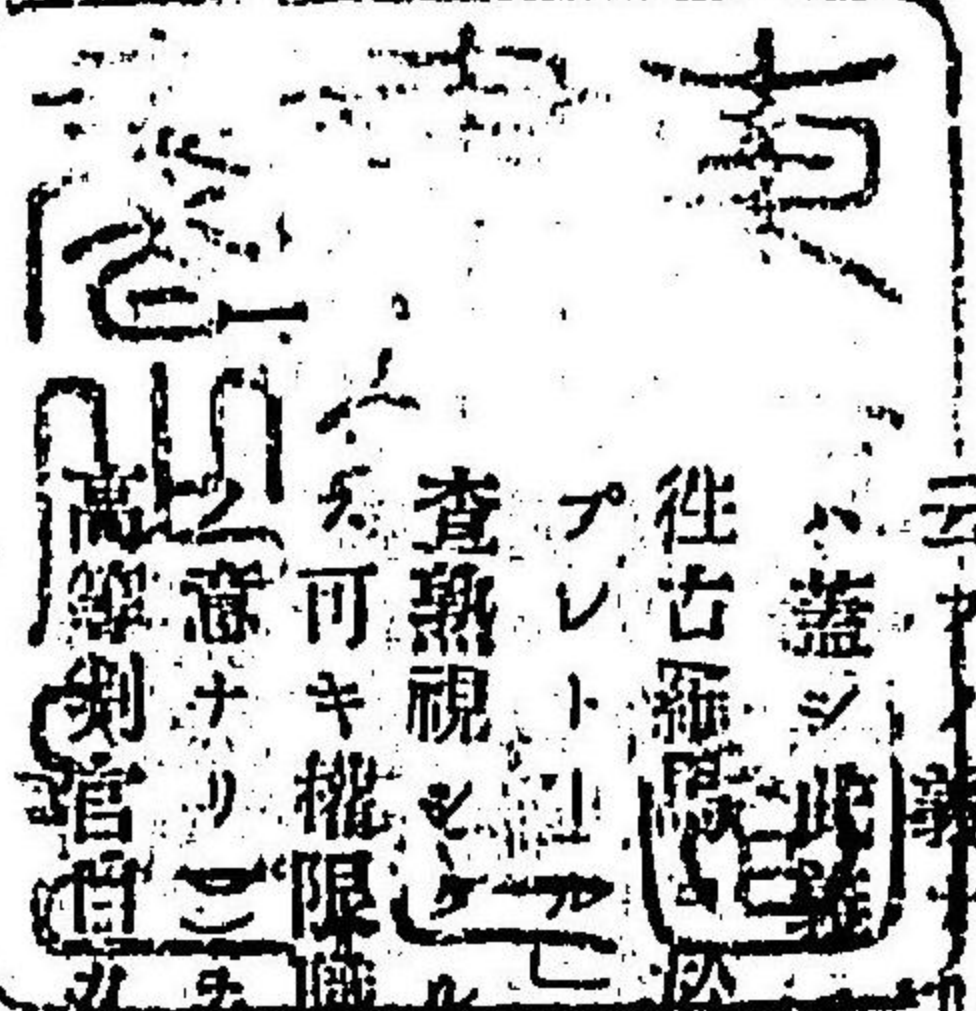
〔第二十卷 期滿得免〕

一 瀬 勇 三 郎 筆 記

本日ヨリ期滿得免ノ權ヲ講説ス可シ佛蘭西語ニテ之ヲ「プレスクリプシオン」ト云フ凡ソ法律學士ヲ除ク外ハ當今尙恐クハ其「プレスクリプシオン」ナル文詞ノ何ノ意タルヲ解スル者無カル可シ抑「プレスクリプシオン」ナル語ニハ或ハ命令ト云フノ意アリ常ニ醫師ノ診斷書ヲ稱シテ「プレスクリプシオン」ト云フハ蓋シ此義ニ基クナリ然レモ今本卷ニ解説スル所ノ「プレスクリプシオン」ハ決シテ此義ヨリ出テタル者ニ非サルナリ

抑「プレスクリプシオン」ナル語ハ雅典語ヨリ傳來セシ者ナリ雅典ノ「プレス」ト云フ語ハ佛蘭西ノ「アワン」ト云フ語ニシテ「アワン」トハ前ト云フノ意ニシテ「エクリール」トハ書スルトナル語ニ適スルナリ而シテ「アワン」トハ前ト云フノ意ニシテ「エクリール」トハ書スルト云ヤノ義ナリ要スルニ前書ト云フ事ナリ本卷ニ記スル所ノ「プレスクリプシオン」ナル語ハ蓋シ此義ヨリ出テタル者ナリ請フ試ニ之ヲ述ベシ

往古羅馬ノ法ニ於テハ人民常ニ訴訟ヲ爲スニ直チニ通常ノ裁判所ニ至ラス先其事件ヲ以テ「プレスクリプシオン」ナル高等判官ノ所ヘ差出セリ而シテ此高等判官ハ自カラ其事件ノ情實ヲ驗査監視シテ上ニテ其訴訟人ニ某裁判官ノ所ヘ至ル可キ旨ヲ命メ且共ニ其裁判官ノ執行スル可キ權限職務等ヲ定メタル証書(當時之ヲ「フォルミユール」ト稱セリ蓋シ式文ト云フ)ニ附與シ以テ之ヲ其指示シタル裁判官ニ差出シシメタル



高等判官ハ其事件ヲ驗査スルニ當リ被告人ヨリ既ニ其義務ヲ辨濟シタル旨ヲ述ベタ

ル時ハ別段之ヲ其証書ニ記セザリシ然レモ若シ之ニ反シテ被告人其原告人ノ要求ヲ拒ム
 原告人ノ強迫若クハ詐偽等ニ因リ其契約ヲ爲シタル旨ヲ述ヘタル時ハ高等判官ハ其証
 書ニ更ニ左ノ命令ヲ附加シ以テ其裁判官ニ送致セリ曰ク原告人ノ強迫若クハ詐偽無シト
 云フノ確証有ル時ハ被告人ニ其義務ノ執行ヲ命セヨ
 又被告人契約ヲ以テ其義務ノ釋放ヲ受ケタル旨ヲ述ヘタル場合ニモ尙其証書ニ左ノ附文
 ナ加ヘタリ曰ク若シ其義務ノ釋放有リト云フノ確証無キ時ハ被告人ニ其義務ヲ執行スヘ
 キ旨ヲ命セヨ
 又若シ被告人其原告人ノ要求ヲ拒ムニ既ニ長期間ヲ經過セシ旨ヲ以テシタル時ハ高等判
 官ハ其証書ノ冒頭ニ左ノ命令ヲ記セリ曰ク裁判官ヨリ先ツ既ニ三十年ヲ經過シタル事件
 ナルヤ否ヤヲ調査セヨ果シテ三十年ヲ經過シタル事件ナル時ハ別段被告人ニ其義務ノ執
 行ヲ命スル勿レ
 右ハ專ラ人權ニ管シテ述ヘタル者ナリ物權ニ管シテモ尙同一ノ命令ヲ記セリ何レノ場合
 ニ於テモ其長期間ヨリ出テタル抵拒法有ル時ハ必ス之ヲ其証書ノ冒頭ニ記載シタリ「フ
 レスクリプシオン」ナル文詞ノ佛蘭西ニ傳來セシハ蓋シ此理由ニ因ル
 若シ夫ノ期滿得免ノ制ハ元來何ノ理由ニ基キテ成定セリヤト云フノ問題ハ彼ノ性法ヲ講
 説シタル時ニ既ニ諸君ニ辨明シタリ今又之ヲ約言ス可シ
 凡ソ法律初學ノ徒ニシテ始メテ期滿得免ノ制ヲ觀ルニ當リ或ハ之ニ因テ其權利ヲ失ヒ或
 ハ之ニ因テ其權利ヲ得ルト云フニ至リ忽チ驚駭セサル者ハ蓋シ稀ナリ然レモ若シ一度其
 理由ヲ會得スル時ハ又忽チ其疑塊ヲ溶解セサル者無シ其理由ニ二箇有リ

第一法律ハ常ニ詞訟ノ蔓延スルヲ欲スル者ニ非ス就中事實ノ證據ヲ得ルニ困難ナル場合
 ノ如キハ最モ法律ノ其訴訟ヲ忌ム所ナリ然リ而シテ既ニ長ク年月ヲ經過シタル後其訴訟
 ナ始ムル時ハ常ニ多クハ其證據ヲ發顯スルニ難ク隨テ其裁判官チテ其事實ヲ確認セシ
 ムルヲ得スシテ終ニ其訴訟ヲ却下スルニ至ラシムルヲ免レサル可シ是即チ期滿得免ノ制
 ナ設ケタル第一ノ理由ナリ
 第二ハ長ク年期ヲ經過スルノ間ニハ或ハ其物件ノ買主ニシテ一旦其代價ヲ辨濟シタルモ
 既ニ其証書ヲ紛失シタルカ又一箇義務ヲ擔當セシ者一旦其義務ヲ辨濟シタルモ既ニ其受
 取書ヲ失却シ竟ニ之ヲ証スルニ由ラズ屢ニ重拂ノ不幸ヲ蒙ル者有ルヲ免カレス且ツ
 其權利者ハ空ク三十年ノ長期間ヲ經過シ更ニ其義務ノ返還ヲ要求セザリシト云フハ實際
 上有利可カラサルノ事ナリ是期滿得免ノ制ヲ設ケタル第二ノ理由ナリ此第二ノ理由ニ因
 テ之ヲ觀ルニ期滿得免ハ之チ一個ノ推測ト看做ス可キナリ是蓋シ第千三百五十條ヲ講説
 セル時既ニ諸君ニ辨明セシ所ナリ
 以上陳述シタル所ニ由テ之レヲ觀ル時ハ期滿得免ノ制ハ固ヨリ當正適理ノ者ナルヤ明
 リ日本ニ於テハ未ダ期滿得免ヲ成立シタル法律アルヲ聞カスト雖モ苟モ裁判官タル者ハ
 常ニ之ニ據テ事實ノ推測ヲ爲シ以テ其詞訟ヲ判決スルモ更ニ不都合無カル可キナリ
 凡ソ期滿得免ノ効ニ二個有リ一ハ期滿所得ノ權ニシテ他ノ一ハ期滿免除ノ權是ナリ以下
 諸箇條ニ付之ヲ詳説ス可シ
 (第一章 總規則)
 [第百二十九條]

四

本條ニハ即チ前ニ述ヘタル二箇ノ期間得免ノ効ヲ記セリ一ハ物件ノ所有ヲ得ルノ効即チ
期間所得ノ權ニシテ他ノ一ハ義務ヲ免カル、効即チ期間得免ノ權是ナリ而シテ期間所得
ノ權ヲ得ルニハ必ス先ツ法定ノ期間中其物件ヲ占有スルヲ要スルト雖モ期間得免ノ權ヲ
得ルニハ單ニ其法定ノ期間ヲ經過スルノミチ以テ足レリトス其他又法律上規定セシ諸多
ノ條件ヲ遵守セサル可カラズ漸次之ヲ説明ス可シ

〔第二千二百二十條〕

本條ハ單ニ期間得免ノ權ニシテ適施ス可キ法律ニシテ期間所得ノ權ニハ更ニ之ヲ當用スルヲ得可
キ者ニ非ス

夫レ自カラ義務ヲ擔當スル者ハ預メ其期間得免ノ權ヲ拋棄ス可キ旨ヲ約スルハ實際上決
シテ困難ノ事ニハ非サル可シ然レモ法律ハ常ニ義務者ヲ保護スルノ趣旨ナルヲ以テ殊更
ニ本條ヲ揭ケテ預シメ其權利ヲ拋棄スルヲ許サスト云フ是全ク其義務者ヲ保護シタル主
意ヨリ出タル者ニシテ實ニ適理ノ法條ナリト云ハサル可カラズ何トナレハ若シ之ヲ許ス
時ハ常ニ需用ニ乏キ所ノ義務者ハ究困ノ餘リ暗ニ其權利者ノ強迫ヲ受ケ已ムヲ得ス其期
滿得免ノ權ヲ拋棄スルノ契約ヲ諾スルコト有ル可ク爲メニ大弊ヲ釀シ終ニ此重要ナル期間得免
ノ制ヲ空スルニ至ルヲ免レサル可キナリ

是ヨリ本條ハ期間所得ノ權ニ決シテ之ヲ當用ス可カラサル理由ヲ例示セシ蓋シ期間所得ノ
權ヲ生スルハ左ノ三箇ノ場合ニ過キサル可シ

第一ハ茲ニ一箇ノ間地有リ或人之ヲ占領ス此場合ニ於テハ預シメ其期間所得ノ權ヲ拋棄
ス可キ旨ヲ約定スルト云フハ敢テ想像ス可カラサル事ナリヤ辯テ俟ダスモ明瞭ナリ

第二ハ甲者眞ノ所有者ニ非サル乙者ヨリ一個ノ物件ヲ購求セリ此場合ニ於テモ亦買主甲
者ヨリ預メ其期間所得ノ權ヲ拋棄ス可キ者ヲ約定セリト云フハ敢テ想像ス可カラサル事
ナリ

第三ハ甲者眞ノ所有者ナル乙者ヨリ一個ノ物件ヲ購求セリ此場合ニ於テハ尙更其期間所
得ノ權ヲ拋棄ス可キ者ヲ預メ約定スルト云フハ敢テ想像ス可カラサル事ナリ然ラレハ
賣主ノ常ニ其買主ニ對シテ其物件所有ノ證書ヲ失セヨト約スルヲ得ルト云フニ至ル可シ
以上ノ辯明ニ由テ之ヲ觀ルニ本條ハ特ニ期間得免ノ爲メニ設ケタル者ニシテ期間所得ノ
爲メニハ實ニ不要ノ法條ナリト云フ可キナリ

〔第二千二百二十一條〕

本條ハ蓋シ前條第二段ノ法文ヲ明解シタル者ナリ夫レ預メ期間得免ノ權ヲ拋棄スルハ敢
テ法ノ許サレ所ナリト雖モ之ニ反シテ既ニ得タル期間得免ノ權ヲ拋棄スルハ其明諾ト
默諾トヲ問ハス明カコト法ノ認許スル所ナリ是亦順當ノ法條ナリト云ハサル可カラズ

茲ニ甲者自カラ若干ノ地面ヲ占有シテ既ニ三十年ノ期間ヲ經過セリ乙者來リテ其土地ハ
元來自己ノ所有物ナル旨ヲ告ク甲者ハ自カラ己レノ所有物ニ非サルヲ認メ以テ其期間得
免ノ權ヲ拋棄ス是決シテ法ヲ以テ防ク可カラサル事ナリ

又甲者所有者ニ非サル乙者ヨリ一箇ノ物件ヲ購求シ而シテ既ニ期間得免ノ期間ヲ經過セ
リト雖モ後其非ヲ悔ヒ以テ其物件ヲ眞ノ所有者ニ返還ス是亦敢テ防ク可カラサル事ナリ
却テ之ヲ獎勵シテ可ナリ

又甲者自カラ負擔シタル義務ヲ更ニ辨濟スルナク既ニ三十年ヲ經過シ以テ期間得免ノ權
ヲ得タリ然レモ其非ヲ悔ヒ以テ其義務ヲ辨濟セリ是亦正直ノ所業ナリ敢テ法ヲ以テ之ヲ

五

防少可カラス

六

以上述ヘタル數例ニ由テ之ヲ觀ルニ既ニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ許ルスト云フハ實ニ正理ニ適合シタルノ法制ナリト云ハサル可カラス且ツ本條ハ其期滿所得ノ權ト期滿得免ノ權トヲ問ハズ共ニ之ヲ通行スルヲ得可シ

本條ニ記スル所ノ黙諾ノ拋棄トハ何ノ場合ナル乎或ハ之ヲ認定スル困難無シトセズ例ヘハ土地取戻ノ訴ヲ受ケタル者更ニ期滿得免ノ權ヲ得タル旨ヲ以テ其原告人ノ要求ヲ拒ム無ク其土地ノ收穫物ヲ悉ク收納スル迄ノ猶豫ノ期限ヲ請求シタル場合ノ如キハ自ガラ黙諾セテ其期滿得免ノ權ヲ拋棄セタル者ト看做ス可キナリ

凡ソ期滿得免ノ權ヲ有スル者更ニ之ヲ主張スル無ク專ラ他ノ方法ヲ以テ其原告人ノ要求ヲ抵拒シタル時ハ最早黙諾セテ其權ヲ拋棄セタルト爲スヲ以テ一般ノ慣例トス故ニ若シ一旦諸多ノ抵拒法ヲ述ヘ盡シタル後尙答辯ノ不足ナル時更ニ期滿得免ノ權ヲ以テ原告人ノ要求ヲ攻撃セント欲スル者ハ其答辯中添ヘテ其旨ヲ述フ可キナリ然ラサレハ黙諾セテ既ニ其權ヲ拋棄セタル者ナリト看做サルハノ事有ル可シ

〔第二百二十二條〕

本條ハ必ズ二箇ノ期滿得免ニ適施ス可キ法章ナリ夫レ期滿得免ノ權ヲ有スル者ニシテ自カラ之ヲ拋棄スルハ即チ其物件ヲ他人ニ讓渡ス者ナリ然リ而シテ凡ソ自己ノ物件ヲ他人ニ讓渡スルハ必ズ其能力有ル者ニ非レハ之ヲ爲ス能ハスト云フハ一般ノ法則ナリ是本條ノ設ケ有ル所以ナリ故ニ幼者ハ其期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ス後見人モ亦然リ其幼者ノ爲メニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ス

茲ニ一問題有リ自カラ幼者ニ代リテ訴訟ヲ受ケタル後見人其期滿得免ノ權ヲ以テ其原告

人ノ要求ヲ拒ム無ク他ノ方法ヲ以テ之ヲ攻撃シ終ニ其訴訟ニ敗レタリトセンニ此ノ如キ場合ニ於テハ其決如何ス可キ乎本題ヲ決スルニハ必ズ訴訟法第四百八十一條ニ依遵セサル可カラス即チ其幼者ノ代人ハ正シク其答辯ヲ爲セリト云フヲ以テ尙其幼者ハ自

ラ丁年ニ達セタル後告知ヲ得タル日ヨリ二ヶ月間ハ此期滿得免ノ權ヲ主張スルヲ得可シ

〔第二百二十三條〕

若シ原被告方ノ訴訟中裁判官ニ於テ被告ノ義務ヲ免カレシ證據有ルヲ發見セハ假令被告ノ之ヲ申立テサル時ト雖モ裁判官此證據ヲ引用シテ之ニ勝テ得セシムルニ何ノ妨ケカ有ランヤ例ヘハ原告人ヨリ被告人ヨリ贈遺ニテ得タル不動産ヲ占得セント訴フル時ノ如キ若シ其證書ノ公証ノ手續ヲ履行セシ者ダラサルニ於テハ被告ノ之ヲ引証スルト否トニ管セス裁判官ハ單ニ其職務ヲ以テ原告人ノ訴ヲ退クルヲ得可キナリ

人有リ占有者ノ財產ヲ以テ自己ノ所有物ナリト申立テ而シテ之ヲ取戻セント訴ヘダリ蓋シ原告人ハ占有者其先人ノ之ヲ買取リシヲ知ラザリト思ヒ之ヲ奇貨トシテ其取戻ヲ請求シタルナリ然ル時ハ被告ノ果シテ之ヲ知ル無ク從テ其先人ノ所爲ヲ申立テスト雖モ裁判官他ノ確乎タリ證據ヲ見出スニ至レハ之ヲ其裁判言渡書ニ記載シテ被告ノ勝ヲ取ラシムルモ可ナリ

原告人ノ既ニ盡サレシ義務ヲ得ント求メ又ハ既ニ相殺セシ義務ヲ得ント求ムルカ如キ時モ亦右ト同一ナリトス然レモ裁判官ニ於テ訴訟人ノ引証セザル事柄ヲ其裁判ノ證據ト爲ス事ハ本條ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ得レナリ即チ期滿得免ノ事ハ訴訟人ノ申立ツル時ノ外ハ裁判官ト雖モ其職務ノミヲ以テ之ヲ證據ト爲ス能ハサルヲ謂フナリ而シテ其理由ニ二箇有リ請フ之ヲ述ヘン

七

第一契約ノ成立ニ緊要ナル條件ノ如キ辨濟相殺買等ノ如キハ訴訟人ノ申立テサル時ト雖也裁判官ハ其有無虚實ヲ知ルコト於テ疑ハシカクサル事有リ故ニ自己ノ職務ノミヲ以テ之ヲ証據ト爲スヲ得可キナリ然レハ期滿得免ノ如キハ元法律上義務ハ既ニ消散セシナラ

第二訴訟人若シ期滿得免ノ事ヲ申立テント欲スレハ之ヲ申立ツルナル可ク而シテ其之ヲ申立テサルハ自身ニ於テ其爲シタル事ノ確乎ナラサルニ因レリ然ルニ若シ裁判官之ヲ証據ト爲スニ於テハ是訴訟人ノ欲セサル所ノ事柄ヲ証據ト爲ス者ナリ豈之ヲ可ト云フヲ得

裁判官本條ノ規則ヲ顧リミスシテ訴訟人ノ申立テサル期滿得免ヲ以テ証ニ用フルコト於テハ其裁判言渡ハ控訴院ニ至テハ取消シト成リ大審院ニ至テハ破毀セラルルニ至ラン

〔第二千二百二十四條〕
本條ハ第二千二百二十一條ノ意ヲ擴充シタル者ナリ
訴訟中何時タリトモ期滿得免ノ事ヲ申立ツルヲ得可ク即チ其始メコト於テモ中項ニ於テモ又終リニ於テモ雙方ノ者ハ總テ之ヲ申立ツル自由ナリトス
法律ノ特ニ之ヲ明言スル所以ハ訴訟ノ答辯中何事ヲモ云ハサルニ先ンテ申立ツ可キ者有ルヲ以テナリ此ノ如キハ裁判所ノ管轄方式ノ無効等ノ者是ナリ
訴訟人若シ訴訟ノ終リニ至ル迄期滿得免ノ事ヲ申立ツル無ク而シテ敗訴ト成リシ時ハ控

訴院ニ至リテ更ニ之ヲ申立ツルヲ得可シ然レハ訴訟ノ終迄之ヲ申立テサル者二三ノ狀況ニ因テ期滿得免ノ方法ヲ放棄シテ推測セラル可キ時例ハ義務ヲ負ヒシハ相違無キト雖也既ニ之ヲ辨濟シ終レリト云ヒ以テ不完全ノ受取書ヲ差出シタル時ノ如キハ最早期滿得免ノ事ヲ申立ツル能ハサル可キナリ何トナレハ義務ヲ負ヒシニ相違無シト云フカ如キハ即チ義務有ルヲ承認スル事ナレハ暗ニ期滿得免ノ利益ヲ放棄シタルト事相等シケレハナリ故ニ初審裁判所ニ於テハ勿論假令控訴院ニ至ルモ最早決メテ之ヲ引用スル能ハス隨テ辨濟ノ證據ノ完全ナラサル時ハ義務ヲ盡クヌ可キノ申渡シテ受クルニ至ル可キ期滿得免ノ利益ヲ放棄セタリト看做サレサルヲ欲セハ最初ヨリ義務有ルヲ承認スルニ等シキ言詞ヲ吐カサルニ注意シ又ハ期滿得免ノ利益ヲ放棄セスト明言シテ他ノ証據ヲ述ヘ例ハハ期滿得免ノ事ヲ申立ツルノ權有レト今之ヲ行フ無ク先ツ試ミニ之ヲ辨濟シタル事ヲ証セント云フカ如クセサル可カラサルナリ
期滿得免ノ事ハ大審院ニ於テ之ヲ申立ツルヲ得ス是事實ヲ証スルノ方法ニシテ法律上ノ問題ニ非サルヲ以テナリ

〔第二千二百二十五條〕
法律ハ被告人ニ非サル者即チ其權利者若クハ他ノ期滿得免ニ付テ利益ヲ得可キ者ニ期滿得免ノ事ヲ申立ツル權利ヲ附與セリ是被告人ノ之ヲ申立テサル時ノニ非ス其利益ヲ暗若クハ明ニ放棄シタル時ト雖也猶然リトス
余カ輩ハ先ツ第一被告人ノ期滿得免ノ利益ヲ申立ツルヲ怠リシ場合ヲ見ントス此場合ニ於テハ其權利者又ハ其管係人ハ被告人ノ爲メ之ヲ申立ツルヲ得可ク蓋シ被告人之ヲ申立

ルヲ怠リシ時ト雖也敢テ之カ爲メニ其權ヲ失フ事ハ有ツサルナリ此決議ハ唯本條ノミ

總ツク者ニ非ス第千六百六十六條ニ依レル者トス
 本條及ヒ第千六百六十六條ニ記載セラル、者ハ義務者ノ其資産ヲ保存スルニ付テ利益有ル
 者トス然ルニ若シ義務者ニ於テ期滿免除ノ事ヲ申立ツル無キ時ハ其財産ハ必ス減少シ隨
 テ其權利者又ハ其他ノ管係人ノ害ト成ル可キナリ何トナレハ義務者ノ財産ハ權利者若ク
 ハ管係人ノ一般ニ目的トスル所ナレハナリ是法律上之ニ期滿得免ヲ申立ツルノ權ヲ附與
 スル所以ナリ

期滿得免ヲ申立ツルノ權ハ被告人ノ一身上ニ管スル者ナレハ被告人ノ外何人ト雖モ之ヲ
 申立ツルノ權ヲ行フ能ハスト思考スル者頗ル多シ然レモ法律ハ期滿得免ヲ申立ツルハ財
 産ヲ得又義務ヲ免カレ、一方法タルヲ以テ敢テ之ヲ被告人ノ一身上ニ管スル者トセス而
 シ其權利者及ヒ關係人ニモ之ヲ申立ツルヲ得セシムルナリ

今ヤ被告人ノ明白ニ期滿得免ノ利益ヲ放棄シタル場合ヲ見ントス此場合ニ於テハ其放棄
 ノ權謀ニ出ツルヤ否ヤヲ看破セサル可カラス而シテ若シ其權謀ニ出テタルノ証明有レ時ハ
 權利者ハ第千六百六十七條ニ因テ其放棄ヲ取消ヲ得可シ蓋シ權利者ハ如何ナル場合ニ在テ
 モ其權利ヲ損害セラル、所爲ヲ取消スノ權有レハナリ

今又被告人ニテ權謀無クシテ期滿得免ノ利益ヲ放棄シ、リト假想セシムルニ於テハ權
 利者ハ其放棄ヲ取消シ而シテ期滿得免ノ事ヲ申立ツルヲ得可キヤ曰ク余ハ然ラスト思惟セ
 リ夫レ義務者ノ之ヲ申立サルハ其中分ニ疑ハレキ者有ルナリ而シテ義務者ノ自カテ疑フ者
 ハ權利者モ亦之ヲ疑ハサルヲ得然ルニ若シ權利者ニ於テ期滿得免ノ利益ヲ申立ツルト
 セハ是義務者ノ自カテ疑フ所ノ事柄ヲ疑ハサルニ等シカル可ケレハナリ
 以上陳述セタル三個ノ場合中第一ノ場合ヲ除外シ外皆第千六百六十六條ノモテ以テ處分ス

レモ數テ法律ノ精神ニ違ハスト爲然ルニ第一ノ場合ハ單ニ此條ノモテ以テ處分ス可
 カラサル者有ルナリ

蓋シ此場合ニ此條ノモテ因テ處分セシムル時ハ或ハ人ヲノ期滿得免ヲ申立ツルノ權ハ義
 務者ノ一身上ニ屬スル者ニテ義務者ノ外之ヲ行フヲ得スト思惟セシムルニ至レ可シ因テ
 本條ハ其權ノ義務者ノ一身上ニ管セサル者タルヲ云ハシカ爲メ特ニ權利者又ハ其他ノ關
 係人ハ之ヲ申立ツルヲ得ルト明言スルナリ

〔第千二百二十六條〕

期滿得免ハ所有權ヲ轉移スル者ナレカ故コ凡ソ吾人ノ融通スルヲ得可キ物件コ非サレハ
 之ヲ適セサル者トス而シテ其融通スルヲ得サル物件トハ法律上ニ於テ此ト定メタ、若シ
 リ故コ道路、河川、海灣、海港等ノ如キハ之ヲ占有スル幾年ノ久キニ及フト雖モ決シテ其所
 有ヲ得ル無シトス

「コンノルス」(譯本ニハ賣買ト譯シタリ)ノ語ハ本來商業ノ意有リ又賣買ノ意有リト雖
 モ本條ニ於テ之ヲ賣買ト譯スルハ不可ナリ何トナレハ若シ之ヲ賣買ト約スル時ハ其義狹
 キコ失レ彼ノ贈遺交換コテノ轉移ヲ含蓄セサレハナリ

〔第千二百二十七條〕

國、公告及ヒ邑ノ如キ總テ法律上ニ於テ無形人ト認メラル、者ハ平人ノ如ク諸般ノ財産
 ヲ所有シ其入額ヲ利スルヲ得可キナリ是國、州、邑ニ於テ森林田畑等ヲ有スル所以ナリ但
 シ國、州、邑ノ財産ト雖モ唯之ヲ管理スルノモテ特別ニ入額ヲ生セサル者有リ此財産ハ
 即チ公領ト名ツクル者ナリ彼ノ森林田畑ノ如キハ之ヲ國、州、邑ノ私有物ト云フ然リ而シ
 公領ハ期滿得免ニテ所有權ヲ轉移スル者ニ非ス期滿得免ニテ所有權ヲ轉移スルハ唯私有

物ノトス今本條ニ國、州、邑ハ平人ニ等シク己レ人ノ爲メ期滿得免ノ申立ヲ受ケト有ルハ其私有物ニ付テ之ヲ云ヒシノトス
既ニ期滿得免ノ申立ヲ受ケサルヲ得ストモ亦之ヲ申立ツルノ權無カラサルヲ得ス然ラズ
州、邑モ財產ヲ占有シタル時又ハ其義務ノ三十年間ヲ經過シタル時ハ期滿得免ノ事ヲ申
立ツルヲ得可

以上余カ輩ノ陳述セシ所期滿得免ニモ又期滿得權ニモ適スル者トス是ヨリ余カ輩ハ此二
者ヲ別々ニ講究ス可

〔第二章 占有ノ事〕

本章ヨリ以下ノ箇條ハ同時ニ期滿得權ト規畫スル者有リト雖モ要スルニ大
抵ハ飛離レテ此二者ヲ別々ニ披陳セリ即チ第二章第三章ハ總テ期滿得權ノ事ヲ述ヘ第四
章ノ第一款及ヒ第二款ハ期滿得免ノ事ニ管スル第二章二百四十九條、第二章二百五十七
條、第二章二百五十八條及ヒ第二章二百五十九條ヲ除ク外ハ皆期滿得免ト期滿得權ト
ノ二者ニ普通ス第五章ノ第一款及ヒ第二款モ亦然リトス但シ第二章六十三條及ヒ第二千
六十四條ハ期滿得免ノ事ニ管スル者トス而シテ第三款ハ期滿得權ノ事ニ適シ第四款ハ第二
千二百七十九條以下ヲ除ク外ハ悉ク期滿得免ニ管セリ但シ第二章二百七十九條及ヒ第
二千二百八十八條ハ期滿得權ノ事ニ通シ其次條ハ期滿得免及ヒ期滿得權ノ二者ノ總則ナリ
トス

余カ輩ハ今ヨリ期滿得權ニ付テ講説ヲ爲サントス
余是迄諸君ニ告タルニ期滿得權ハ時間ヲ經過シ所有者ノ不行トスルヲ以テ足レシトセ

而シ其成ルハ多クハ他人ノ占有ニ基ク可キ旨ヲ以テセリ又附着ノ權ヲ講ス時ニモ占
有ノ事實ナルヲ將ク權利ナルカト云フノ問ヲ起シ而シテハ權利ナリト云ヒタル蓋シ占有
ハ一見シタル所コトハ至ク一箇ノ事實ノ如ク見ユルト雖モ其權利ヲ生スル點ナカラサル
カ故ニ人多ク之ヲ權利ト看做セリ

〔第二章二百二十八條〕

占有ノ解義ハ本條ニ之ヲ記載セリ曰ク「占有トハ自カラ物件ヲ保有シ或ハ權利ヲ行ヒ又
ハ名代人ヲノ物件ヲ保有セシメ或ハ權利ヲ行ハシムルヲ云フ」ト

保有スルトハ佛蘭西語「テツタンジョン」ニシテ物件ノ事ニ管スル者ナリ權利ニ付テ云
フノ語ニ非サルナリ故ニ物件ヲ保有スルト云ヒ權利ヲ保有スルト云フヲ得ス而シテ保有ス
ルトハ管ニ物件ヲ使用スルノ事ニ非ス尙之ヲ自己ニ掌握シテ勝手ニ取扱ヒ即チ管理スル
ヲ云フナリ例ヘハ田畑ノ如キ之ヲ保有スト云フ時ハ其入額ヲ得ルモ又之ヲ耕スモ又之ヲ
通路トスルモ總テ自由ナリトス

又本條ニ行フト有ルハ「ジョイサンス」ノ語コト即チ利益ノ謂ヒナリ此語ハ本條ニ於テ
ハ權利ニ管セテ物件ニ管セサルナリ然ラハ則チ物件ノ占有ハ物件ノ保有ナリ而シテ權利ノ
占有ハ權利ヲ行フ事ト知ル可シ物件ヲ保有シ權利ヲ行フハ必スシモ自カラ爲スヲ要セサ
ル者ナリ夫レ一人コシテ萬般ノ事ヲ擔任スルハ何人ト雖モ亦之ヲ爲スニ難カル可キナリ
因テ人ヲ撰テ己レニ代ラシム之レヲ名代人ト云フ故ニ占有者モ亦其人ヲ撰テ物件ヲ保有
シ若クハ權利ヲ行ハシムルモ可ナリ唯要スル所ハ之ヲ自己ノ名前ニ於テセシムルニ在ル
ノ事

物件若クハ權利ヲ占有シテ期滿得權ヲ得ントスルハ唯占有スルヲ以テ足レリトモ蓋

シ期滿得權ノ基本タルヲ得可キ占有ニハ數箇ノ條件有ルヲ要セリ而シテ其條件ハ次條ノ舉
クル所トス

〔第一千二百二十九條〕

夫レ占有ハ繼續シ破斷セズ平穩ニシテ公ケク疑ハレカラス且ツ所有者ノ名義ヲ以テ行フ
ヲ要トス

余カ輩ハ最終ノ條件即チ所有者ノ名義ニ於テスト云フ條件ヨリ説キ始メントス蓋シ所有
者ノ名義ニ於テスト云フハ法律ニ循ヒ所有者ノ分限ヲ以テ占有スル物件ノ上ニ所有者タ
ル事ヲ行フノ謂ヒナリ余ノ此條件ヲ先ニ他ノ條件ヲ後ニ説ク所以ノ者ハ此條件ハ最モ
重要ナル者ニシテ之無クハ他ハ成立スルヲ得サルノ條件有ルニ因レリ
此條件ヲ説クハ先ツ所有者ノ名義ヲ以テ占有セサル者ハ何等ノ人ナルヤテ講究セサル
可カラズ夫レ所有者ノ名義ヲ以テ占有セサル者ハ借家人借地人受託人入額所得者等ナ
リ是等ノ人ハ物件ヲ占有スト雖モ自カラ所有者ノ如ク之ヲ占有スルニ非ズ所有者ノ權ヲ
承認シテ之ヲ占有スルナリ佛蘭西語ニ之ヲ「アレンケール」(請願)ノ名義ヲ以テスル占有者
ト云フ而シテ其請願ノ名義ノ事ハ本章ノ第一千二百三十六條ト第一千二百三十九條トニ於
テ之ヲ載セリ此請願ナル原語ノ「アレンケール」ハ羅典語ノ「アリュエネー」ヨリ生シタル者ニ
テ乞求シ請願スルノ意ナリ則チ之ヲ占有コ附加シテ云ハ、所有者ニ願テ之カ所有ノ物件
ヲ占有スルヲ云フコ在リトス

〔第一千二百三十條〕

本條ハ請願ノ名義ノ事ニ管スル者ナリ
人有リ物件ヲ占有スル時ハ何モ以テ之カ自己ノ爲メニシ又ハ所有者ノ名義ニ於テスル

知ル可キヤ語ヲ變シテ云ハ、法庭ニ於テ所有者ノ名義ニ於テセシト否トノ事ハ誰シ証ス
可キ者ナルヤ原告人即チ取戻シテ爲ス者ヨリ占有者カ所有者ノ名義ニ於テセサリト證
ス可キヤ將チ被告人即チ占有者ヨリ所有者ノ名義ニ於テ占有セタリト証ス可キヤ如何
此問題ニ付テハ法律上其答有リ曰ク最初占有者ハ自己ノ爲メニシ又ハ所有者ノ名義ニ
以テシタルコ於テハ其後モ同一ノ名義ヲ以テシタリト推測ス可ク但シ別段ノ證據有ル時
ハ此限ニ非スト然ラハ則チ法律ニ占有ノ初テ問フテ其他ニ及ハサルナリ故ニ苟モ最初所
有者ノ名義ヲ以テ占有セタルコ於テハ法律ハ其占有者ノ爲メニ推測ナル証ヲ定メ何時
迄モ之ヲ所有者ノ名義ニ於テ占有セタル者ト爲スナリ是ヲ以テ法庭ニ於テモ又法庭外ニ於テ
モ最初所有者ノ名義ニ於テセシ占有者ハ其後モ引續テ同一ノ名義ヲ以テスル者ト看做サ
ルコ因リ原告人即チ取戻シテ爲ス者ヨリ占有者ハ所有者ノ名義ヲ以テセサリト証セ
サルヲ得ストス

〔第一千二百三十一條〕

本條モ亦前條ト均シク占有者ノ最初ニ如何ナル名義ヲ以テシタルヤテ問ヒ而シテ反對ノ証
據無キ限リハ其最初ノ名義ニテ引續テ占有スル者ト推測スルナリ故ニ最初他人ノ爲メ物
件ヲ占有セタル者ハ即チ借地人借家人又ハ受託人ノ如キハ皆同一ノ名義ニ於テ占有スト
看做サルナリ余カ輩ハ第一千二百三十八條ニ於テ此名義ハ占有者ノ存意ノミチ以テ變
更スルヲ得ス而シテ之ヲ變更スルコハ法律上ノ所爲有ルヲ要スル所以チ見ル可シ

本日、尙物件占有ノ要件ヲ講説ス可シ

〔第一千二百三十二條〕

本條曰ク「純粹ノ隨意ノ所業及ヒ單一ノ暗許ノ所業ハ占有ノ權ヲ得ルノ原由ト爲ス得ス又期滿得免ノ權ヲ得ルノ原由ト爲ス得ス」ト本條ニハ甚ク曖昧ナル文詞ヲ記セリ先ツ「單一ノ暗許ノ所業」トハ果シテ何物ナル乎是實ニ分明ナラザル用語ナリ余カ思考スル所ニ因リハ法律ハ此文詞ヲ以テ彼ノ所有主ノ名義ト云フノ事柄ヲ補足セント欲シタルナリ故ニ他人ノ物件ヲ其所有主ノ暗許ヲ以テ占有スル者ハ決シテ其期滿得免ノ權ヲ得ル能ハザル可シ譬ヘハ二人相隣スル者一人ハ狹隘ノ土地ニ位シ他一人ハ空曠ノ土地ヲ有スルカ如キ場合ニ在リテハ狹地ヲ有スル者ハ其廣地ノ所有主ノ暗許ヲ以テ自カラ其土地ノ一部分ヲ使用スル有ルハ屢其例ヲ見ル所ナリ然レハ是全ク其所有主ノ暗許ニ據ルヲ以テ幾歲月ヲ經過スト云フハ更ニ其占有權ヲ得ル能ハス又其期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル可キナリ

又「純粹ノ隨意ノ所業」トハ果シテ何レノ所業ヲ指示シタル者ナル乎是亦實ニ分明ナラザル文詞ナリ余カ考案ニテハ法律ハ之ヲ以テ其所有主ノ隨意ニ執行セザリテ所業ヲ指示セシト欲シタル者ナリ

夫レ所有主タル者ハ自カラ其所有權ヲ執行スルモ又之ヲ執行セサルモ自カラ家屋ヲ建築

タルモ又之ヲ建築セザルモ自カラ樹木ヲ培養スルモ亦之ヲ培養セサルモ總テ是等ノ諸件ハ自己ノ隨意ニ之ヲ所分スルヲ得可シ因テ假令其所有主ニシテ自カラ其權利ヲ執行セザル有リト雖モ之ヲ以テ他人ヨリ其期滿得免ノ權ヲ得ント述フルヲ得ス所謂「隨意ノ所業」トハ蓋シ此ノ如キ場合ヲ指シタル者ナリ要スルニ本條ハ全ク無用ノ法律ト斷定シテ可ナリ假令要用ナリト爲スモ其行又ノ穩當ナラザルハ實ニ立法官ノ失當ナリト云ハサル可カラス

〔第一千二百三十三條〕

本條ハ前第一千二百二十九條ニ記載セル「平穩ニ其物件ヲ占有ス可シ」ト云フノ要件ニ管スル者ナリ凡ソ暴行ヲ以テ他人ノ物件ヲ占有シタル者ハ固ヨリ平穩ニ之ヲ占有セザリ云フ可カラサルカ故ニ其占有ヲ以テ期滿得免ヲ得ルノ理由ト爲スヲ得ス然レハ若シ暴行ヲ止メシムルニ於テハ其止メシムル時ヨリ直チニ當然ノ占有ヲ得タル者トス是本條ノ明記スル所ナリ蓋シ暴行ヲ以テ他人ノ物件ヲ占有スルハ當今開明ノ國ニ在リテハ甚ク稀ナリト雖モ兵亂等ノ事有ルニ際シテハ或ハ其例ナキニ非ザルナリ

〔第一千二百三十四條〕

本條及次條ハ共ニ間斷無ク其物件ヲ占有ス可シト云フノ要件ニ管スル者ナリ夫レ期滿得免ノ權ヲ得ルニハ必ス法定ノ時間中始終繼續マテ其物件ヲ占有セサル可カラス若シ其占有ヲ斷絶スル時ハ必ス更ニ其期滿得免ノ權ヲ得ルノ時間ヲ始メサル可カラス間斷無ク其物件ヲ占有ストハ即チ是ナリ

茲ニ一問題有リ訴訟人雙方ノ中何レノ者ヨリ其証ヲ爲ス可キ乎原告人ヨリ其ノ占有ニ間

斷有りリ。○證○可○キ○手○將○被○告○人○其○占○有○之○間○斷○無○キ○證○ス○可○キ○手○本○條○ハ○特○ニ○此○問○題○ヲ○決
 定○セ○シ○カ○爲○メ○ノ○揭○示○セ○シ○者○ハ○大○ニ○其○占○有○者○ヲ○益○ス○ル○ノ○法○章○ナリ○曰○ク○「○現○在○ノ○占○有○者○以
 前○其○物○件○ヲ○占○有○シ○タ○ル○ハ○証○ヲ○爲○ス○時○ハ○其○間○ノ○時○ヲ○於○テ○モ○亦○間○斷○無○ク○之○ヲ○占○有○シ○タ○ル○シ
 看○做○ス○可○シ○但○其○反○對○ノ○證○有○ル○時○ハ○格○別○ナリ○ト○ス」○ト○故○ニ○現○在○ノ○占○有○者○ハ○其○占○有○ノ○始
 終○ト○シ○證○ス○ル○ノ○ミ○ヲ○以○テ○足○レ○リ○ト○ス○其○間○ノ○時○ハ○證○據○ハ○所○有○者○自○ガ○ラ○之○ヲ○爲○サ○ル○可○カ
 ラ

〔第二千二百三十五條〕

物○件○ヲ○占○有○ス○ル○時○間○中○ニ○占○有○者○相○續○人○ヲ○遺○シ○テ○死○シ○タ○ル○時○ハ○之○ヲ○其○占○有○ノ○間○斷○有○ル○者
 看○做○ス○可○キ○手○本○條○ハ○即○チ○此○問○題○ヲ○決○定○セ○シ○カ○爲○メ○設○成○セ○シ○者○ナリ○其○文○自○カ○ラ○簡○明○ナリ
 以○テ○別○段○講○説○ス○ル○ニ○及○ハ○ス○要○ス○ル○ニ○其○占○有○ノ○間○斷○有○ル○者○ト○看○做○ス○可○カ○ラ○ス○ト○云○フ○コ
 在

占○有○ノ○條○件○中○右○ハ○述○ヘ○タル○者○ノ○外○尙○説○明○ス○可○キ○者○有リ

法○定○ノ○時○間○ヲ○除○棄○ス○ル○無○ク○其○物○件○ヲ○占○有○ス○ル○ヲ○要○ス○是○亦○其○占○有○ノ○條○件○中○ノ○一○ナリ○凡○ソ○他
 人○ノ○物○件○ヲ○占○有○ス○ル○時○間○ノ○中○途○ニ○テ○其○期○滿○得○免○ノ○權○ヲ○破○棄○ス○ル○爲○メ○ノ○諸○件○ヲ○爲○ス○コ
 リ○今○其○最○モ○單○簡○ナリ○一○例○ヲ○舉○示○セ○シ○テ○或○ル○不○動○產○ノ○占○有○者○之○ヲ○占○有○シ○タ○ル○未○タ○三○十○年
 ヲ○經○過○セ○ザル○中○ニ○眞○ノ○所○有○者○ヨリ○其○物○件○取○戻○シ○テ○訴○訟○ヲ○受○ケ○テ○其○訴○訟○中○既○ニ○三○十○年
 ノ○期○限○ヲ○經○過○セリ○此○場○合○ニ○於○テ○ハ○假○令○其○占○有○者○ハ○間○斷○無○ク○其○物○件○ヲ○占○有○セリ○モ○尙○且○滿○得
 免○ノ○權○ヲ○得○ベ○シ○能○ハ○ス○何○レ○ナレハ○其○期○限○ヲ○除○棄○シ○タ○ル○所○業○即○チ○眞○ノ○所○有○者○ノ○訴○訟○有リ○コ
 以○テ○ナリ○所○謂○時○間○ヲ○除○棄○ス○ル○ト○ハ○即○チ○是○ナリ○後○段○第○四○章○ニ○至リ○更○ニ○之○ヲ○詳○説○ス○可○シ

又○公○然○ニ○其○物○件○ヲ○占○有○ス○可○シ○ト○云○フ○モ○亦○其○條○件○ノ○一○ナリ○法○律○上○別○段○之○ヲ○詳○説○シ○タル○條○無
 シ○凡○ソ○物○件○ヲ○所○有○ス○ル○者○ハ○公○ケ○コ○之○ヲ○保○有○シ○敢○テ○隠○シ○無○キ○ヲ○以○テ○常○ト○ス○因○テ○其○物○件○ノ○占
 有○者○タル○者○モ○亦○必○ズ○公○然○ニ○之○ヲ○占○有○ス○ル○ニ○非○ザレハ○自○ガ○ラ○所○有○者○タル○ノ○推○測○ヲ○受○ケ
 ハ○ス○且○ツ○其○所○有○者○モ○亦○自○ガ○ラ○訴○訟○ヲ○爲○ス○可○キ○者○ヲ○詳○説○セ○サ
 ル○可○カ○ラ○ス○然○レハ○其○占○有○者○ヲ○公
 コ○セ○サ
 ル○時○ハ○更○ニ○之○ヲ○詳○知○ス○ル○由○無

〔第三章 期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル原因〕

此○條○題○ヲ○一○見○ス○ル○時○ハ○本○章○ノ○記○ス○ル○所○ハ○右○ニ○述○ヘ○タル○占○有○ニ○必○要○ナル○總○テ○ノ○條○件○ニ○管○ス
 ル○者○ノ○如○ク○ナリ○其○實○決○シ○タ○然○ラ○サ
 ル○ナリ○本○章○ハ○獨○所○有○者○ノ○名○義○ヲ○以○テ○其○物○件○ヲ○占○有○ス
 可○シ○ト○云○フ○ノ○條○件○ニ○管○ス○ル○コ
 シ○テ○全○ク○其○反○對○ノ○場○合○ハ○即チ○所○有○者○ノ○名○義○ニ○非○ズ
 テ○其○物○件○ヲ○占○有○シ○タル○場○合○ヲ○揭○示○シ○タル○者○ナリ○其○詳○細○ハ○本○章○ノ○終○ヲ○俟
 テ○之○ヲ○了○知○ス○可○シ

〔第二千二百三十六條〕

本○條○ニ○記○載○セ○ル○土○地○ヲ○賃○借○ス○ル○者○物○件○ノ○附○托○ヲ○受○ケ○タ
 ル○者○ハ○額○所○得○者○及○其○他○後○見○人
 若○ク○ハ○夫○タル○者○ノ○如○キ○自○己○ノ○所○有○ニ○非○ズ
 サ
 ル○名○義○ヲ○以○テ○他○人○ノ○物○件○ヲ○占○有○ス○ル○者○ハ○充
 其○他○人○ノ○爲○メ○ニ○之○ヲ○占○有○ス○ル○ヲ○以○テ○幾○年○月○ヲ○經○ル
 ト○雖○モ○更○ニ○期○滿○得○免○ノ○權○ヲ○得
 ル○可○キ○ナリ

〔第二千二百三十七條〕

凡○ソ○人○ノ○相○續○人○タル○者○ハ○其○先○人○ノ○權○利○ヲ○受○ケ
 ル○者○ナル○ヲ○以○テ○其○先○人○ノ○有○シ
 タル○權○利○ヲ○得
 能○ハ○サ
 ル○理○ノ○當○然○ナリ○因○テ○其○先○人○自○ガ
 ラ○他○人○ノ○爲○メ○ニ○占○有○シ
 タル○物○件○ニ○付
 テ○ハ○其○相
 續○人○モ○亦○期○滿○得○免○ノ○權○ヲ○得
 ル○能○ハ
 サ
 ル○本
 條○ハ○單○ニ○其○所○有○ノ○非○モ
 ル○名○義○ヲ○以○テ○其○物○件○ヲ○占○有○ス
 ル○者○相○續○人○ト○シ
 テ○其○能○ハ
 サ
 ル○ヲ○以

彼ノ第三千二百三十五條ニ揭示セシ如キ者トハ大ニ異ナル所アリ宜シク注意ス可キ事ナ

〔第二千二百二十八條〕

本條ハ第二千二百三十六條ノ例外ナリ本條ニ二個ノ場合ヲ揭示セリ第一ハ人ノ爲メ其物件ヲ占有セシムル者又ハ其相續人他人ノ所爲ニ因リ其物件ヲ有スル名義ノ更改セタル時
第二ハ自カラ其所有者ノ權ヲ拒ムニ因リ其物件ヲ有スル名義ノ更改セタル時
茲ニ甲者アリ丙者乙者ヨリ借用セシメ家屋ヲ更ニ買受ケタル後既ニ三十年ノ期限ヲ經過セリ甲者ハ期滿得免ノ權ヲ以テ其家屋ノ所有權ヲ得可シ是即チ第一ノ場合ノ適例ナリ又
甲者ハ乙者ノ家屋ヲ借用シ常ニ其家賃ヲ辨償セリト雖也後ニ至リ其所有者ノ權ヲ拒ミ家賃ヲ拂フヲ止メテリ而シテ其所有者モ亦自カラ黙シテ敢テ之ヲ要求セス甲者ハ期滿得免ノ權ヲ以テ其家屋ノ所有權ヲ得可シ是即チ第二ノ場合ノ適例ナリ

〔第二千二百二十九條〕

本條ハ其行文自カラ簡明ナルヲ以テ別段之ヲ説明セズ
以下第二千二百四十條及ヒ第二千二百四十一條ハ別段有益ノ法章ニ非サルヲ以テ之ヲ刪除スルモ支障無カル可シ

ボアツト 佛國西民法期滿得免篇講義第四號 明治十二年八月一日

大島三四郎筆記

〔第四章 期滿得免ノ經過ヲ除棄及ヒ停止スル理由〕

本章ニハ第二千二百二十九條期滿得免ノ著名ナル元則ヲ掲載セリ余ハ先ツ除棄ト停止トノ區別ヲ説カン

抑期滿得免ノ經過ノ除棄(第一款)トハ既ニ經過シタル時日ヲ除去シ更ニ此時ヨリ期滿得免ノ日ヲ起算スル者ナリ期滿得免ノ停止(第二款)トハ既ニ經過シタル時日ヲ其儘存置キ一時其時日ヲ經過ヲ中止シ再ヒ之ヲ合算スル者ナリ

〔第二千二百四十二條〕

期滿得免ノ除棄分テ之ヲ二種ト爲ス一ハ自然ノ除棄一ハ法律上ノ除棄ナリ而シテ此二種ハ以下ノ二ヶ條ニ之ヲ指示セリ

〔第二千二百四十三條〕

自然ノ除棄ト名ツクル所以ハ立法者ノ制定ヲ俟タズシテ瞭然ナレハナリ即チ一年以上ノ時間占有ノ權ヲ奪ハレタル時ハ之ヲ自然ノ除棄ナリトス其一年以上ノ時間ト定メタル者ハ蓋シ占有ノ權ハ一年ヲ過クレハ之ヲ得可キ者ナレハナリ

余ハ今一年ヲ過クシテ占有ノ權アリト説明セシカ其占有ノ効力ハ恰モ三十年ノ期滿得權ノ効力ト同一ナルヤ曰ク否反對ノ証有レハ再ヒ之ヲ奪取スルヲ得ル者ナリ

自然ノ除棄有レハ又必ス期滿得免ノ斷絶有リ而シテ斷絶有ルモ自然ノ除棄無キ者有リ今二三ノ例ヲ舉ゲン

茲ニ占有者有リテ十ヶ月間其占有ノ所爲ニ爲サレハ期滿得免ノ斷絶有ルノミヨテ除棄
ハ有ラサルナリ
又所有者及ヒ其他人ノ中何レモ物品ヲ所有セズ占有者モ亦十ヶ月或ハ十五ヶ月間其占有
ノ所爲ヲナササル場合モ亦同様ナリ之ニ反シ人ノ不動産ヲ占有シ再ヒ之ヲ他人ニ十五年
間貸渡シタル時ニハ期滿得免ノ除棄アリテ斷絶ハアラサルナリ

〔第二千二百四十四條〕

法律上ノ除棄中其三ハ本條ニ其四ハ第二千二百四十八條ニ載示セリ
第一ハ裁判呼出ノ事ナリ法律ハ此呼出ノ事ヲ或ハ「シタシヨ」(本條ニ用フル所ノ者)
或ハ「アシニヤシヨ」(第二千二百四十七條ニ見ユ)或ハ「エンタルベラシヨ」(第二
千二百四十九條ニ見ユ)ト云フテ各其語ヲ異ニセリト雖モ到底裁判所呼出ノ事ナリ唯
「シタシヨ」ノ字ハ下等ノ裁判所ニ之ヲ慣用ス

蓋シ此呼出狀ハ公吏即チ使吏ノ取スル所ナリ若シ然ラズトスル時ハ其呼出シテ受ケタル
者ハ訟庭ニ出頭セサルモ計リ難吏ト可シ

蓋シ呼出狀ノ既ニ經過シタル時間ニ除棄スルハ是自然ノ勢ナリ何トナレハ占有者ノ安穩
ヲ妨ケ而シテ法律ノ推測ヲ破斷セシムルハナリ然レモ余ハ後ニ此裁判呼出狀ハ未必ニ條
件ナルノ事ヲ説明セントス第二ハ義務ヲ行フ可キ要決ノ書ナリ此箇ハ一箇ノ執行力ヲ有
セル者ニ即チ夫ノ公正証書ノ類是ナリ督促書ナル者アレハ裁判呼出以前ニ行フカ故ニ
期滿得免ノ時間ニ除棄スル程ノ効力ハアラサルナリ第三ハ財産差押ナリ義務者上ノ要決
ノ書ニ受ケテ猶承服セサル時ハ即チ使吏其動産不動産ヲ差押ヘス人有リ或ハ日ハノ要決
ノ書既ニ期滿得免ノ時間ニ除棄スル何レ其後日ニ執行スル所ノ財産差押ヘテシテ其時間ヲ

除棄セシムル及ハント然リト雖モ此批難コハ二箇ノ辨明アリ即チ市場ノ差押ヘ(訴訟
法第八百二十二條參觀)借家人ノ動産差押ヘ(同第八百十九號第二項參觀)又爲換手形
差押ヘ(商法第七十二條參觀)等ノ如ク要決ノ書ヲ用ヒサル場合アリ又八日或ハ六十
日ニテ期滿得免有ル場合ニハ前後(要決ノ書及ヒ財産取押ヲ云フ)ニ様ノ除棄實ニ緊要
ナル者ナリ

〔第二千二百四十五條〕

本條ハ權利者若シハ所有者ヲ保助スルノ意ニ出テタル者ナリ蓋シ勸解コハ若干ノ時日ヲ
費スカ故ニ其間義務者ニ於テ期滿得免ノ權ヲ得ントスルノ場合ニハ裁判呼出狀ヲ以テ之
ヲ除棄セントスルモ既ニ過シ是ヲ以テ法律ハ勸解呼出ノ日ヨリ期滿得免ノ時期ヲ除棄ス
ル者トセリ

〔第二千二百四十六條〕

本條ニ掲グル所ハ管轄外ノ裁判呼出シノ事ナリ故ニ期滿得免ノ時間ヲ除棄スル者ニ非サ
ルニ似タル凡ソ裁判管轄ノ事タル至難ニシテ各人ノ容易ニ明知シ得ル者ニ非ス而シ
テ之ヲ罪ナルハ法律ノ好ム所ニ非サルカ故ニ設令管轄外ノ裁判呼出シト雖モ猶期滿得免
ノ時間ヲ除棄スル者ト規定セリ蓋シ新タニ管轄裁判所ニ呼出シテ要スルハ勿論ナリトス

〔第二千二百四十七條〕

期滿得免ノ時間ヲ除棄セサル場合四有リ
第一ハ裁判呼出狀其法式ニ背キタル時
抑呼出狀ノ法式ナル載セテ訴訟法ニ在リ而テ其法式甚ク鮮シト云フヲ得ス是ヲ以テ訴訟
人ニ於テモ容易ニ之ヲ探知シ難シ故ニ其法式ニ違フモ亦深ク咎ム可キニ非ス然ルモ本條

於テ其法式ニ戻ル呼出狀ハ期滿得免ノ時間ヲ除棄スルノ効力無シトセリ之ヲ第二千二百四十六條裁判管轄違ノ呼出狀ノ時ニ比スレハ全ク其理由ヲ同シフスルニ似タリト雖モ又他ニ本條ヲ正當ニ解明スルノ術アリ凡ソ裁判呼出狀ノ法式ハ訴訟人ノ代理人タル使吏之ヲ整理調合ス使吏ニシテ法式ヲ知ラストナルヲ得ス若シ法式ニ違フ時ニハ使吏即チ代理人ノ罪ナリ而テ代理人ノ罪ハ本人之ヲ被ムルハ一般ノ通則ナリ故ニ本條ニハ法式ニ違フタル呼出狀ハ期滿得免ノ時間ヲ除棄スルノ効無シトセリ

第二原告人其訴訟狀ヲ願下ケタル時
余ハ前ニ裁判呼出狀ノ期滿得免ノ時間ヲ除棄スルニ未必ノ條件ナリト云ヘリ即チ本項原告人其訴訟狀ヲ願下ケタル時ノ如ク裁判呼出狀ニ於テ時間ヲ除棄スルノ効無キ場合有ルヲ以テノ故ナリ要スルニ訴訟狀願下ケハ裁判呼出狀無キ者ト一般ナリ

第三訴訟期限ヲ經過スル時
原告ヨリ出訴シタル事件ヲ三年間捨置キタル時ハ是則チ默諾ノ訴訟願下ケナリ故ニ裁判呼出無キ場合ト同一ノ者トス(訴訟法第三百九十七條參觀)

第四訴訟却下シ時
本項ノ事タル唯一目シタル所ニテハ實ニ簡易明瞭ナルニ似タレハ深ク之ヲ玩索スレハ至難ノ事ヲ醸生スルニ似タリ蓋シ訴訟ヲ却下スルハ即チ原告人敗失ノ時ナリ是ヲ以テ被告ハ於テハ既ニ裁判ヲ經タルニ因リ期滿得免ヲ主張スルニ及ハサルニ未項特別ニ期滿得免ノ經過シタル時間ヲ除棄セズト規定セシカ故ナリ然リト雖モ又原告人他ノ原因ヲ引テ起訴スルノ場合無キニ非サルヲ以テ法律ハ此一項ヲ設ケケリ

〔第二千二百四十八條〕

本條ニハ期滿得免ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル第四ノ方法ヲ示セリ

前條ニハ訴訟ノ既ニ起生シタル場合ヲ云ヒ本條ニ掲クル所ハ未ダ其起ラサル場合ナリ且ツ第二千二百二十條(預メ期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ス云々)ノ法文ト之ヲ混視ス可カラズ然リト雖モ新タニ經過シタル三十年ノ後ニ之ヲ拋棄スルヲ得ルハ猶本條ニ於テ義務者其義務ヲ認諾シタル後三十年ヲ經過セハ期滿得免ノ權ヲ得ルト至ク同一ナリ論者有リ義務ノ認諾有レハ即チ請願ニ因テ其物件ヲ占有スル理ナリ故ニ認諾ノ後更ニ三十年ヲ經過スルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得ル無シト云ヘリ然レモ余ハ其誤見タルヲ知ル何トナレハ請願ノ時ニハ必ス其証書無カラサルヲ得ス而シテ本例ニハ此証書無シ故ニ再ヒ期滿得免ノ權ヲ得ルニ於テ毫モ妨ケアル無シ

〔第二千二百四十九條〕

本條ヲ注意シ第千二百六條連帶ノ義務ノ條ト一般ナリ唯本條ニ載スル所ハ少ク完備セリ何トナレハ遺物相續人ノ場合ヲ加ヘ且ツ義務認諾ノ一事ヲ増シタルハナリ

本條ノ二項三項及ヒ四項ハ容易ニ説明シ難シ故ニ深ク注視ス可キナリ其記スル所ノ主旨ハ遺物相續人ハ先人ノ代理ナリ決テ相續人相對ノ代理ニ非ス今二三ノ例ヲ擧ケテ以テ之ヲ解説ス可シ
茲ニ甲乙丙ノ連帶義務者有リ甲者ハ丁戊己ノ相續人ヲ遺テ死セリ而シテ此義務者ノ一人ナル乙者若クハ丙者訴訟ヲ受シ此場合ニハ乙丙ハ勿論甲者ノ相續人ナル丁戊己ニ對シテ其期滿得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス(第一項)其相續人ノ一人ナル己者訴訟ヲ受ケ此場合ニハ丁戊己ニ對シテハ期滿得免ノ時間ヲ除棄スル無シ唯負債ノ三分ノ一ニ付己者ニ對シテ除棄スルニ止マリ(第二項)乙者及ヒ丙者モ各三分ノ一ニ

付キ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス(第三項)丁戌己共ニ訴訟ヲ受ク此場合ニハ連帶義務者及シ總テノ相續人ニ對シテ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス(第四項)分ツ可カラサル義務ノ如キハ連帶義務者ト相續人トヲ問ハス其中一人ヲ訴ヘハ即チ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル者トス

〔第二百二十五條〕

債主若シ負債者ヲ訴ヘタル時ハ其保證人ニ對シテモ期滿得免ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スト雖モ若シ其保證人ノヨリ訴ヘタル場合ニ於テハ保證人ハ決シテ負債者ノ地位ヲ毀傷ス可カラサルカ故ニ負債者ニ對シテ期滿得免ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル無シ若シ又保證人其負債ヲ認諾シタル時ト雖モ其代價ヲ本人ニ乞フテ得ス到底己レノ損失州リ

本條ノ旨ハ連帶債務者ト相續人トヲ問ハス其中一人ヲ訴ヘハ即チ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル者トス

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第五號 明治十二年八月三日

井田 鐘次郎 筆記

余ハ會テ期滿得免ノ事ヲ講スルニ際シ中止ト破斷トノ語ヲ發シ且ツ其意義如何ヲ述ヘタルニ因リ諸君ハ略之ヲ知了セル者ト信スルナリ蓋シ此二箇ノ語クルヤ世俗ニ於テハ通常之ヲ同一ノ義ニ解シ敢テ彼是ノ別ヲ立ツル無シ本日ノ演說ハ之ヲ中止ス本日ノ講義ハ之ヲ破斷ス又ハ彼ノ事業ハ破斷セリ彼ノ爭論ハ中止セリト云フカ如キハ皆之ヲ同一ノ義ニ用ユル者トス然レモ法律上ニ於テハ二者皆其義ヲ異ニセリ是法文皆二箇ノ款有リテ之ニ別々ノ規則ヲ供スルヲ以テ知ル可キナリ

破斷トハ期滿得免ヲ妨礙スル所爲ニシテ其効チ前既ニ經過セシ時間ヲ不用ニ屬セシムルニ在リトス中止モ亦期滿得免ヲ妨礙スル者ト雖モ前ノ時間ハ不用ニ屬セシムル後ニ經過セル時間ト相合シテ期滿得免ノ完全ナルニ至ルチ妨ケサル所爲チ云フ是ニ由テ考フレハ中止ノ語ハ停滯ノ語ニ換ユルチ善トス故ニ期滿得免ノ破斷セラル、時ハ前既ニ經過セシ時間ハ悉ク無益ト成ルニ因リ又更ニ法律上要スル所ノ期限ヲ經過セシメサルチ得ス中止ニ至ケル則チ然ラス其期滿得免ヲ妨礙スル所ハ唯一時其經過ヲ止ムルニ過キサルチ以テ其所爲ノ効消滅スルニ及ヒテハ現ニ殘レル時期ノ經過スルノミコトヲ期滿得免ハ自カラ完全ナルハ期ニ達スルニ至ラン

破斷ト中止ハ占有者若シハ義務者ニ取リテハ何レカ最モ害少キ者ナルヤ諸君若シ此語ヲ聞者ハ必ス中止ニ害少ク破斷ニ害多クト思フナル可ク然レモ是全ク皮相ノ淺見ノ見蓋シ破斷ニ害多ク中止ニ害少ク事ハ屬ハ之アリト雖モ亦然ラサル者無シトモ請フ

之ヲ論ゼン例ハ茲ニ不動產ヲ占有スル四五年ニ及ビテ者アリ所有者其不動產ノ他人ニ占有セラルルヲ知テ取戻シノ訴ヲ起シ又ハ之ヲ差押ヘ又ハ之ニ要訣ノ書ヲ送達シ其所爲ニ因リ期滿得免ヲ破斷シタリ期滿得免ハ斯ク破斷セラレタリト雖モ其所爲止ムヤ否ヤ直ニテ經過シ始ムレハ占有者ノ失フ所僅カニ四五年ノ時間ニ於ケルノヒトス然ルニ中止ニ至テハ期滿得免ヲ經過テ妨礙スル二十年ノ久キニ及フ事アリ期滿得免ノ二三歳トテ幼者ノ爲メ法律コテ之ヲ中止スレハナリ此ノ如ク論スル時ハ破斷ニ害多クシテ中止ニ害少クトハ強チ云フ可カラサルノミナラス却テ破斷ニ害少クシテ中止ニ害多クシト云フモ敢テ不可ナラズ無シ

右ノ例ニ反シ若シ期滿得免ヲ其經過ノ將ニ終ラントスルニ破斷スル時ハ占有者ニ取テハ不利益是ヨリ大ナルハ無シ何トナレハ又更ニ二十年ノ時間ヲ經過セサレハ期滿得免ノ利益ヲ得ル能ハサレハナリ

之ヲ要スルニ破斷ハ期滿得免ノ始メニ之ヲ爲スト其終リニ之ヲ爲スト占有者若シハ義務者ノ利害ニ於テ害壞ノ差違アリトス又中止モ其時間ノ長ク成ル場合ト短ク成ル場合トコ隨テ等シク利害無キ能ハス故ニ破斷ハ中止ヨリ害多クトモ云フ可カラス又中止ハ害少ク破斷ハ害多クシトモ云フ可カラス唯場合ノ如何チ問フニ在ルノミ

余ハ前文ニ於テ法律ハ幼者ノ爲メ期滿得免ヲ中止スト云ヒシカス云フ時ハ期滿得免ハ既ニ經過シ始メタル明ナレハ丁年者ニシテ再ビ幼者ト成ルカ如クナリトス然レモ是決シテ遭逢ス可カラサルノ場合ナリ然ラハ幼者ノ爲メ期滿得免ヲ中止スルハ如何ナル場合ニ之アリヤ曰ク幼者ノ其丁年者タル父ニ相續シタル時はナリ蓋シ相續人ハ其先人ノ權利義務ヲアリノ儘ニテ受續クニ付キ若シ法律上ニテ其權利ノ期滿得免ニ係ル者アルニ際シ其

經過ヲ中止セズンハ其相續人ハ其先人ト等シク之ヲ失フノ効ヲ受ケサルヲ得サルナリ余カ輩ハ是ヨリ期滿得免ヲ中止スル原因ノ如何チ見ル可シ

〔第一千二百九十一條〕

期滿得免ハ何人ニ對スルモ經過ス可キヲ以テ法律上一般ノ原則トス故ニ法律コテ例本ノ部ニ列セサル者ハ總テ其効ヲ受ケサル可カラス因テ期滿得免ハ此人ニ對シ中止セラル、ヤ否ヤチ知ラント欲セハ法律ノ全部ヲ翻ヘシテ之ヲ搜索セヨ若シ何レノ處ニ於テモ其人有ルヲ見出サズンハ即チ期滿得免ノ此人ニ對シ經過スルコト知ル可シ

中止ニ二箇ノ原因有リ曰ク人ノ分限(第五十一條ヨリ第五十六條ニ至ル)曰ク義務ノ狀態(第五十七條ヨリ第五十九條ニ至ル)是ナリ

中止ノ原因タル分限ニ四種アリ幼者治産ノ禁ヲ受ケタル者婚姻シタル婦專利相續人はナリ

法律ニテ是等ノ人ニ對シ期滿得免ノ經過ヲ中止スル所以ハ單ニ之ヲ保護センカ爲メノミ

〔第一千二百五十二條〕

本條ハ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケタル者ニハ期滿得免ノ經過セサル旨ヲ定ム

前條ト本條ノ書方ニ宜シカラサル者有リ請フ此兩條ノ例外ノ語ニ注意セヨ等シク例外ノ語ナリ而シテ其係ル所別箇ノ事項ニ非スヤ蓋シ前條ノ其語ハ期滿得免ノ總則ノ例外即チ中止ノ場合ヲ云フト雖モ本條ノ其語ハ中止ノ事ヲ云ハストテ却テ其總則ニ入ル可キ場合ヲ述フ是書方ノ宜シカラサル所トス

第一千七十六條ニ此期限(損害ヲ原因トシテ賣買ノ契約ヲ取消ス可キ期限)ハ婚姻シタル婦、失踪者、治産ノ禁ヲ受ケタル者及ヒ幼者ニ對シ經過ス可キト有ルニ因リ此條ヲ一見

護(即チ中止ノ保護)ヲ受クルカト疑フ起ス者有ル可シ因テ今茲ニ其疑ヲ起スニ足ラサ
旨ヲ述ヘン失踪者ハ法律上多分ノ保護ヲ受クルコトモセヨ(第一篇ノ第二款)民法ニハ
期滿得免ノ事ニ管シ之ヲ保護スト云フ箇條有ル無シ然ラハ失踪者ハ期滿得免ノ事ニ付テ
ハ其總則ノ効ヲ受クルヤ明ナリ而シテ該條ハ幼者治産ノ禁ヲ受クル者ノ一様ニ載セラルル
ハ民法編纂者古法ヲ寫取リ之カ民法ノ規則ニ反スルヲ悟テサレバ根庭セリ
本條ニ付テ尙一言ス可キ者有リ余ハ前文ニ於テ法律ノ幼有及ヒ治産ノ禁ヲ受クル者ヲ
保護スト云フニシカ未タ其理由如何ヲ陳述セザリキ因テ之ヲ茲ニ云フ云フ幼者又ハ治産ノ
禁ヲ受ケタル者ニハ後見人アリテ其諸般ノ事務ヲ擔任スルコト付キ一見シタル所ニテハ敢
テ法律上コトテ之ヲ對スル期滿得免ノ經過ヲ中止スルコト及ハサルカ如シト雖モ亦然ラサル
事アリトス夫レ後見人ハタル者ハ其職ニ任セラレ、コト當テ幼者ノ身分及ヒ其權利義務等ヲ
詳細ニ取調フルトモ或ハ其取調ニ洩ルル者無キコト非ス或ハ其取調後幼者ノ爲メ自カラ
權利ノ生スル事モアル可シ又ハ幼者ノ後見人ニ告ケスニテ權利ヲ得ルノ所爲ヲ行フモ知
ル可カラサレハ後見人ト雖モ爭テカ是等ノ事柄ヲ以テ自己ノ責ト爲スヲ得シヤ既ニ後見
人ノ責ニ任セザルトモハ期滿得免ノ事ヲ知ラサルカ又ハ之ヲ知ルモ之ヲ破斷スルヲ爲
サ、リシ幼者ハ空ク其財産ヲ失ハサルヲ得ス豈憫マサル可ケンヤ是法律ハ幼者ノ爲メコ
期滿得免ヲ中止スル所以ナリ若シ幼者コトテ治産ノ禁ヲ受ケタル者ヲ相續シ又ハ治産ノ
禁ヲ受ケタル者コトテ幼者ヲ相續シ又ハ幼者ノ丁年ニ達セントスルニ治産ノ禁ヲ受クル
等ノ時ハ期滿得免ノ中止セラルルハ、當ニ二三十年ニ止マラスシテ五六十一年間ニ及フ者ア
ル可シ左スレハ權利ニ曖昧ナル者生スルニ因テ伊多利亞國ニ於テハ其中止ノ時間ノ極度

オホ十年ト定メリ其他ニ於テハ之ヲ四十年トスル所アリ

〔第一千二百五十三條〕

法律上期滿得免ノ事ニ管シ夫レ對シテ婦ヲ保護スルハ事實ノ己ム可ラサル者ナリ蓋シ夫
婦婚姻ヲ爲スニ於テハ終身和合協睦シテ一生ヲ保タサルヲ得サレハ苟モ其間ニ於テ雙方
ノ權利義務ノ損害セラルル、無カラシキ期セサル可カラズ然ルニ若シ夫婦ノ間ニ在テモ期
滿得免ノ經過スルアラハ其勢各々自己ノ損害ニ意ヲ注シ困リ終ニハ僧老協睦ノ大本モ
自カラ崩潰スルニ至ラン且ツ夫レ自己ノ權下ニ婦ヲ支配スルヲ得可キ者カレハ或ハ強暴
以テ之ヲ脅迫シ或ハ權謀以テ之ヲ籠絡シ之カ財産ヲ期滿得免ニテ自己ノ有ト爲スチ圖
シモ知レ可カラズ法律ニテ夫婦ノ間ニ期滿得免ヲ中止スルハ蓋シ之ヲ爲メナリ
法律ノ婦ノ爲メコト期滿得免ヲ中止スルハ固ヨリ其原則トスル所ニ非ス是他無シ婦ハ幼者
治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ如ク才知經驗ノ足ラサル者ニ非サレハナリ故ニ本條ノ如キハ婦
ニ取テハ一箇例外ノ規則ナリトス

〔第一千二百五十四條〕

幼者ハ期滿得免ノ事ニ付キ一般ニ保護ヲ受ク可シト雖モ婦ハ法律上ニ定メタル場合ニ非
サレハ保護ヲ受ケサル者トス故ニ此一點ニリ論スレハ本條ハ婦ニ管スル期滿得免ノ總則
ヲ掲ケル者ナリ
本條ニ「婦ハ夫婦婚姻ノ契約ニ因リ又ハ裁判所ノ命令ニ因リ夫ト財産ヲ分ツ無シト雖モ」
ト有リ佛蘭西コトハ財産ヲ嫁資トスルノ一種特別ノ契約有リ此契約ニ於テハ夫ハ婦ノ後
見人ト成リテ其持來リシ財産ヲ支配ス是婚姻中ハ引續ク可シト雖モ若シ夫婦間ニ於テ不
都合ノ生スル時ハ夫又ハ婦ヨリ財産ヲ分クシト斷スルヲ得可キナリ新タ訴ヘタル後之ヲ

許スノ裁判官渡シテ受クル時ハ則之ヲ執行セテ財産ヲ分ツ可ク既ニ財産ヲ分テ終ラハ婦ト雖自カラ其財産ヲ支配スルノ權有リ今本條ノ定ムル所婦ハ初メヨリ財産ヲ分ツノ契約ヲ爲サ、ル時又ハ一旦財産ヲ嫁資トシテ未タ之ヲ分クサル時ト雖其財産ニ付テハ總テ期滿得免ニ係ルヲ免カ、ル、無ト云フニ在リトス本條ノ雖ハノ語ヲ用ユル所以ハ財産ヲ分クサル中ハ夫ニ於テ之ヲ支配スルヲ以テナリ蓋シ法律ハ夫ノ之ヲ支配スル時ト雖ハ期滿得免ハ婦ニ對シテ經過ス可キ旨ヲ云ハント欲スルニ過キス是ニ由テ考フレハ財産ヲ分ク後即チ婦自カラ之ヲ支配スル後ハ期滿得免ノ經過スルハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ナリ但シ茲ニ一專ノ注意ス可キ者有リ即チ夫ノ財産ヲ支配スル中ニ期滿得免ノ經過シ終ルニ於テハ婦ハ夫ニ對シテ損害ノ償ヲ請求スルヲ得ルモ事若シ自カラ財産ヲ支配スルノ後ニ在レハ他ニ其償ヲ求ムルノ方法無シトス

右ニ記スル所ヲ以テセハ法律ノ婦ト幼者ヲ保護スルニ於テ頗ル差異有ルヲ知ルニ足ル可
試ニ問ハン婦ノ保護セラル、幼者ヨリ薄キ所以ノ者ハ何ソヤ婦ト云ヒ幼者ト云ヒ何レモ後見人有リテ自カラ其財産ヲ支配スル能ハサル者ナラスヤ然ルニ幼者ノ爲メニハ期滿得免ヲ中止シ婦ノ爲メニハ之ヲ中止セスレテ唯夫ニ其責ヲ負ハシムルノミナルハ抑何ノ故ナルカ曰ク幼者ハ才知經驗ノ足ラサル者タルニ因リ期滿得免ノ經過スル有ルモ之ヲ破斷スルヲ知ラサル無キコシモ非ス婦ハ之ニ反シテ能ク其危キヲ察スルヲ得可ク而シテ之ヲ破斷スルノ必要ナル場合ニ臨マハ夫ニ勸メテ其事ヲ行ハシメ若シ夫ノ之ヲ行フヲ肯セサル時ハ裁判所ノ許可ヲ得テ自カラ處分スル所有ル可キナリ之ヲ要スルニ婦ハ幼者ト違ヒ期滿得免ノ事ニ付テハ自カラ其責ノ一部ニ任セサルヲ得サルナリ

〔第二千二百五十五條乃至第二千二百五十六條ノ第一項〕

是ハ諸君ノ未ダ曾テ聞知セサル夫婦資財ノ契約ヲ説明セシムルハ解シ難キ者ナルヲ以テ余ハ暫ク之ヲ不問ニ附ス可ク

〔第二千二百五十六條第二項〕

時有リテハ夫其婦ノ承諾ヲ得ル無クシテ其財産ヲ賣拂ヒ又ハ贈遺シテ保證人ト成ル有リ是他人ノ物件ヲ讓渡ス者ナリ因テ其契約ハ無効ナリトス然レハ其財産ノ所有者タル婦訴ヲ起シテ之ヲ取戻サンカ買主ハ夫ニ對シテ損害ノ償ヲ請求スルニ付キ夫ハ之カ爲メニ迷惑ヲ被リ隨テ夫婦和合ノ本義ニ害アル同シ然ラズ婦ハ之ヲ傍觀シテ已マンカ是空シク財産ヲハニ奪ハル、ナリ此場合ニ在テハ婦タル者ハ進退維谷マレリト云フ可ク因テ法律ハ婦ヲ保護セントシテ本項ノ規則ヲ設ケ總テ婦ノ訴權ノ夫ニ反動スル時ハ解縁ノ期ニ至ル迄婦ニ對スル期滿得免ヲ中止ス可クト定メタルナリ

〔第二千二百五十七條〕

本條期滿得免ノニ管スル者ナリ而シテ其舉ルル所ハ期滿得免ヲ中止スル義務ノ狀態ナリトス
法文ニ期滿得免ヲ中止スル三箇ノ場合ヲ掲グト雖ハ要スルニ二箇ノ場合ヲ舉グルニ過キス即チ權利ニ未必ノ條件ノ附帶セル時及ヒ期限ノ附帶セル時はナリ
余契約ノ効ヲ停止スル未必ノ條件ニ付テ權利ヲ得タリ此時ハ其權利ハ未ダ生セサル者ナリ故ニ期滿得免ハ此權利ニ對シテ經過スルナリ而シテ其經過スルハ之カ生シタル時ヨリ以後ニ在リトス
本條第二項ノ場合ハ他人ヨリ取戻シテ爲ス有ルニ於テハト云フ未必ノ條件ニ管スルヲ以

四三

テ即チ第一項ノ場合ニ入ル可シ蓋シ賣買ヲ爲シタル時ノ如キ賣主其買主ニ對シ其賣物ノ自己ノ所有タルヲ保證スルニ因リ他人ノ來テ取戻シヲ爲ス時迄ハ幾年ノ久キコ及フモ買主ノ賣主ニ對シ保證ヲ爲サシムルノ權ハ決シテ消滅スルノ理アル可ラサルナリ何トナレハ其權ハ其時迄生セサル者ナレハナリ

第三項ハ權利ニ期限ノ附帶セル場合ヲ指シ此時ニ於テハ權利ハ既ニ生ラリト雖モ未ダ之ヲ執行ス可キノ期ニ達セザレハ其期ニ至ル迄ハ法律ニテ義務者ハ之ヲ消滅セリ是權利者ハ其執行ヲ得シナラント推測スルヲ得サレハナリ

〔第一千二百五十八條乃至第一千二百五十九條〕

此二箇ノ條ハ入ノ分限ノ權利ノ狀態トモ合シテ期滿得免ヲ中止スルノ原因ト爲セリ

佛蘭西ニ於テハ相續人ト雖モ死者ノ資產ヲ相續スルヲ要セザルノ法有リ蓋シ死者ノ負債

ノ多キ時ハ之ヲ相續セテ却テ損失ヲ受クルノ事アル可キカ故ナリ然レモ相續スルト相續

セザルトハ財產ヲ取調ヲ爲シタル後ニ非サレハ往々決シ難キノ場合アルヲ以テ法律ハ一

箇ノ折中法ヲ設ケ死者ノ負債ノ額ニ至ル迄其資產ヲ相續スルヲ許セリ是之ヲ專利ノ相續

人ト云フ此相續人ハ死者ノ財產ヲ支配スルノ義務有リ

專利ノ相續人ニシテ死者ノ權利者タル時ハ法律ハ其權利ニ對シ期滿免除ヲ中止ス是專利

相續人ハ自己一身ニテ遺留財產ノ權利者ト支配人ト兼スルニ因リ然レモ專利相續人

ニ非サレハ遺留財產ノ權利者ニハ期滿免除ハ經過スル者トス而シテ其經過スルハ遺留財產

ニ相續人モ無ク又支配人モ無キ時ニ於テモ猶異ナル無シ

又遺留財產ヲ相續人ハ其財產ノ目錄ヲ作爲スルニ三月ノ期限ヲ有シ又相續スルト否ト

ヲ議定スルニ四十日ノ期限ヲ有スルト雖モ期滿免除ハ其間ニ於テ經過ス可キ者トス

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第六號 明治十二年八月六日

一瀬 勇三郎 筆記

〔第五章 期滿得免ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限〕

〔第一款 總規則〕

本日ハ講義ノ終會ナレモ尙殘ル所ノ箇條抄カラス、余ハ細密ニ各條ヲ講説セント欲スレ

ル其時間無キヲ如何セン、故ニ唯其要領ヲ擧ケテ諸君ニ告グルニ過キサル可シ、請フ之ヲ

諒セヨ

〔第一千二百六十條乃至第一千二百六十一條〕

此二箇條ニ付テハ別段説明ス可キ事無シ蓋シ諸多ノ詞訟ヲ豫防センヲ爲メ、記定セル法

律ナリ

第一千二百六十一條ニハ明カニ期限ノ最終ノ日ヲ記セリト雖モ其最初ノ日ヲ記セス、期

限ノ最初ノ日ハ之ヲ算ス可キ乎、將タ之ヲ算入ス可カラサル乎、蓋シ此問題ハ古今學士ノ

論難スル所ニシテ當今未ダ一定ノ說有ラザルカ如シ、然レモ余カ說ヲ以テ之ヲ觀レハ期

限ノ初日ハ必ス共ニ之ヲ算入セサル可カラザル者ノ如シ、何トナレハ其權利者若クハ所

有者ハ此初日ヨリ出訴スルノ權有ルヲ以テナリ

〔第二款 三十年ノ期滿得免ノ權〕

〔第一千二百六十二條〕

本條ニ記セル所ノ人ノ權及ヒ物ノ權ニ付テハ訴訟ハ總テ三十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可

五三

キ期限トス。ト云フハ一般ノ原則ナリ。特別ノ法章ヲ設ケテ特別ノ期滿得免ノ權ヲ定メサ
ル時ハ必ス三十年ヲ以テ其期限トス。又本條ノ但シ書ニ記スル所ハ專ラ期滿所得ノ權ニ
管シテ定メタル者ナリ。善意ヲ以テ物權ヲ所得スル者ハ尙短キ期限ニ因リテ期滿得免ノ
權ヲ得後條ニ之ヲ詳記ス。人權ニ付テハ別段其善意ナルト惡意ナルトヲ區別スルヲ要セ
ル。

〔第二千二百六十三條〕

本條ニ記載セル年金ノ事ニ付キ一言述フ可キ者有リ。蓋シ通常貸借等ノ場合ニ於テハ權
利者ハ固ヨリ其元金ヲ要求スルノ權有リト雖モ之ニ反シテ年金ヲ得可キ權利者ハ常ニ其
元金ヲ要スル能ハス。故ニ若シ權利者ヨリ更ニ一個ノ證書ヲ請取ラサル時ハ必ス期滿得
免ヲ經過ス可キヲ以テ自カラ其年金ヲ求ムル能ハサルニ至ル可キナリ。是本條ノ設定
ル所以ナリ。

〔第二千二百六十四條〕

本條ハ別段説明スルコト及ハス。

〔第三款 十年ト二十年トノ期滿得免ノ權〕

〔第二千二百六十五條〕

凡ソ不動産ヲ占有スル者ハ其所在ノ控訴院管内ニ住スルト否トニ從ヒ十年若シハ二十年
ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得ル者ナリト雖モ必ス本條ニ明定セル二個ノ要件ヲ遵奉セサル可
カラズ。即チ善意及ヒ正當ノ名義是ナリ。善意ノ何者タル事ハ余既ニ第五百五十條ノ場合
ニ於テ之ヲ講述セリ。重複ニ屬スルヲ以テ今之ヲ略ス。正當ノ名義無シテ其物件ヲ占有

スル者ハ必ス善意無キ者ナリ。之ニ反シテ正當ノ名義有リト雖モ必スレモ惡意無シト云
フヲ得ス。

法律ハ又其不動産所在ノ控訴院管轄ノ内外ニ隨テ其期限ヲ十年トシ又之ヲ二十年トスル
ト雖モ唯其内外ノ差ヲ以テ議カニ其期限ヲ倍スルト云フハ敢テ之ヲ適正ノ成條ナリト認
ムルヲ得ス然レモ法ノ明文有リ之ヲ如何トモスル能ハス。實際上ニハ必ス此期限ヲ遵奉
セサル可カラズ。

〔第二千二百六十六條〕

本條ハ殊更ニ講説ス可キ事無シ。

〔第二千二百六十七條〕

凡ソ公式ヲ要スル事件ニシテ之ヲ缺キタル者ハ十年又ハ二十年ノ期滿得免ノ權ヲ得可キ
憑據ト爲ス可カラズ。蓋シ公式ヲ要スル事件トハ贈與ノ契約及ヒ書入質ノ契約ノ如キ者
ヲ云フ。

〔第二千二百六十八條〕

本條ニ依リ凡ソ期滿得免ノ權ヲ得ル者ハ通常善意ヲ以テ之ヲ得タリト推測ス可シト云
フ。之レヲ推測スルニ二個ノ理由有リ。先ツ常ニ人ノ思想ヲ證スルハ實際難キ事ナリ。次ニ
人ノ性ハ善ナリト云フヲ以テ常トス性ノ惡ナルハ異常ナリ法律ハ其反對ノ證ヲ立ルヲ許
ルスナリ。

〔第二千二百六十九條乃至第二千二百七十條〕

此條ハ別段余カ説明ヲ要セシメテ可ナリ。蓋シ一ハ期滿所得ニ管スル者ニシテ、他ノ一ハ

期滿免除ノ管スル法章ナリ

〔第四款 別段ノ期滿得免ノ權〕

〔第一千二百七十一條〕

本條モ期滿得免ニ管スル法章ナリ別段講説スルヲ要セス

〔第一千二百七十二條乃至第一千二百七十四條〕

此條モ亦別段説明スルヲ及ハス

〔第一千二百七十五條〕

本條ハ至極緊要ナル法章ナリ、余ハ既ニ先會ニ於テ二十年ノ期滿得免ノ權ハ確乎ナル推測ニ基クテ以テ何レノ反證有リト雖モ更ニ之ヲ破回スル能ハサル旨ヲ論定セリ、是レ蓋シ一般ノ公益ニ管スル者ナルヲ以テ然ルナリ、今本款ニ記列セル期滿得免ノ權ハ悉ク僅々ノ期限ヲ以テ之ヲ得ル者ナルガ故ニ本條第一項ニ於テ誓詞ヲ以テ其反證ヲ立ルヲ認許シタルハ管理ノ法制ト云フ可キナリ、本條第二項ニ記載セル事柄ハ既ニ誓詞ヲ講説スル時ニ之ヲ詳説セシメテ以テ今之ヲ省略ス

〔第一千二百七十六條乃至第一千二百七十八條〕

此條ハ別段説明ス可キ事無シ

〔第一千二百七十九條〕

本條第一項ニ記スル所ノ法則ハ既ニ屢舉示辯明セシ者ナリ、蓋シ緊要ナル法條中ノ一ナリ今本項ニ記スル所ノ占有トハ何レノ要件ヲ供ヘタル者ナルヤヲ討究スルニ動産ノ期滿得免ハ前段ニ陳ヘタル期滿得免トハ大ニ異ナル所有リテ動産ニ付テハ即時ノ期滿得免ト

リト云フノ法定ナルヲ以テ前條ニ述ヘタル要件中彼ノ繼續シテ物件ヲ占有ス可シト云フノ要件及ヒ期限ヲ除棄スル無シ其物件ヲ占有ス可シト云フノ要件ハ敢テ之ヲ遵守スルヲ要セサルナリ、特リ彼ノ安然ニ之ヲ占有ス可シト云フノ要件ト公然ニ之ヲ占有ス可シト云フノ要件トハ必ス之ヲ遵守セサル可カラズ、且ツ正當ノ名義ト善意トハ必ス亦缺シ可カラサルノ要件ナリ、他ハ是迄數度講説セシヲ以テ此ニ之ヲ省略ス

本條第二項ニハ第一項ノ例外ヲ記セリ曰ク「然レモ動産ヲ見失ヒ又ハ之ヲ盜取セラレタル者ハ之ヲ有スル者ニ對シ其日ヨリ三年ノ間其取戻ヲ求ムルヲ得可シ」ト、此法文ニ由リ或ハ第一項ノ原則ハ不要ニハ屬セサルカト疑惑スル者有ル可シト雖モ若シ物件ノ借主又ハ其相續人之ヲ他人ニ賣却セタリト想像セハ決シテ本文ノ無要ニ屬セサルヲ詳認スルニ難カラサル可シ

〔第一千二百八十條乃至第一千二百八十一條〕

此條ハ別段説明ス可キ事無シ

明治十四年七月九日翻刻御届
同 年七月出版

翻刻出版人

岡山縣士族

小笠原美治

神田區神田五軒町
十八番地

東京神田五軒町

弘令本社

同 芝三島町

山中市兵衛

同 通二丁目

稻田佐兵衛

同 通三丁目

丸屋善七

同 日本橋西河岸

須原屋鐵二

大坂心齋橋通備後町角

吉岡平助

同 心齋橋通唐物町

森本大助

京都寺町通四條上ル

田中治兵衛

賣 捌 所

諸

國

賣

千葉市場町	乙亥舍	越後水原	西村六平
陸中盛岡	澤田正助	同 三條	繩口小左衛門
豐前中津	野依曆三	羽後久保田	本間金之助
伊勢津東町	淺野東介	上州高崎	文心堂
同 桑名舟町	大塚茂兵衛	武州川越	菅間定治郎
同 四日市	伊藤善太郎	信州小諸	小山九郎兵衛
名古屋本町	片野東四郎	弘前土手町	野崎九兵衛
三州豐橋	高須又八	陸前仙臺	伊勢安右衛門
岐阜米屋町	三浦源介	羽後大曲	板屋五郎左衛門
越後卷町	笛木又平	和歌山本町	平井文助
下總佐原	堤正平	大分京町	山川正三郎
橫濱辨天通	丸屋善八	熊本新二丁目	長崎次郎
長崎引地町	鶴野常藏	福島十丁目	近江屋周吉
長崎袋町	滿都家太平治	同五丁目	齋藤彦太郎
信州長野	小柳屋喜太郎	福岡橋口町	山崎登
山形五日町	八文字屋	羽後橫手	渡邊八右衛門
同	北國屋彌平治	羽前米澤	素月晨平
羽前鶴岡五日町	小池藤治郎	美濃大垣	岡安慶介
陸中盛岡肴町	佐藤庄兵衛	加州金澤	中村喜平
兵庫湊町	金港堂	信州松本	高美甚左衛門
越後新潟	吉川成藏	岩代會津	田中善平

弘

書

肆

陸前石ノ巻
 靜岡吳服町
 越前福井
 同武生
 江州大津
 但馬豐岡
 淡路須本
 播州姫路
 岡山紙屋町
 山口中市
 雲州松江本町
 同天神町
 越後長岡
 同高田馬出町
 同吳服町
 羽前山形十日町
 函館
 泉州堺神明町
 廣嶋中島本町
 伊勢龜山
 常州水戸

三陸屋利兵衛
 三浦定吉
 酒井安兵衛
 黒田善司
 澤宗治郎
 由利安助
 福浦文造
 山野長平
 世羅田益太郎
 阿部準助
 園山喜三右衛門
 川岡清介
 大橋佐平
 小方長吉
 本田勝太郎
 荒井大治郎
 魁文社
 鈴木久三郎
 秋田惣兵衛
 渡邊東五郎
 川又銀藏

新潟東堀通
 長州萩
 越後高田
 越前竹生
 岩代二本松
 岐阜太田町
 下總八日市場
 越後中條
 羽前山形
 下總松戸
 徳島西新町
 岡山上ノ町
 同西大寺町
 豫州松山湊町
 廣島横町
 越後高田
 福岡箕子町
 同所
 野州朽木
 磐城白川天神町
 右ノ外官令全報賣捌書肆

林富吉
 松原惠兵衛
 清水庄平
 吉川作次郎
 柳屋彦輔
 春陽舍
 木内嘉兵衛
 村山長太郎
 市村五郎兵衛
 根本勝之助
 黒崎精二
 細謹社
 弘文南舍
 土肥與平
 松村善助
 竹田善健
 古野書店
 林野斧助
 叶屋儀右衛門
 奥村市右衛門

定...
 十錢

